

第6回くらす部会会議録

日 時	2017年3月28日(火) 13:30~15:30
場 所	地域連携交流施設 2階 会議室
テーマ	1、本日参加メンバー 2、協議課題 3、その他 4、次回開催日の調整
内容	<p>1、参加メンバー：13名</p> <p>2、協議課題</p> <p>○くらし方勉強会について シェアハウス見学会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西宮市 「NPO 法人地域生活センターれん」のシェアハウスを見学 ・居宅介護事業所の事務所が1階にある一軒家の2部屋(2階・3階)を障害のある方に貸している ・家賃 35,000円 食事代 夜 500円 朝 300円 共益費 15,000円 <p>○今年度の振り返り</p> <p>くらし方勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の中で、障害のある人の暮らしの課題(どこでくらしでも、ほぼ同じ課題かな…)がわかり、次のステップとして、実際に一人ぐらしやグループホーム(※以下、GH)などで生活をしている人の話を聞きたい。課題に沿って話してもらえる題材になった ・体験・生活報告会 ・課題に対して解決方法の勉強会や意見出しを行う ・同じ意見が出るかもしれないが、生の意見は大事 ・播磨町にいつか一人暮らしが出来るものが必要 ・少しでも早く進むようになればいい ・沢山話して、書いたことがどこにつながるかが分かるとよい ・当事者がどう暮らしたいかが、この会に反映されているのかどうか? ・この話の着地点が見つからない。これがモヤモヤ ・自分は勉強になる。これをどう広げていくかが大切 ・沢山の意見が聞ける場。でも課題の解決につながってない ・話を聞いて成果がわからない。せめて精神のGHはないのか? ・年に1度はしないといけない。他県の取組み等知りたい ・継続は必要。なぜなら、みんなが安心してくらししていける町づくりのため ・成果が出にくい、改めて考える場に…。悩める方の救いの場に、情報収集の場に。いつもは家族単位だが、広い視野で考える場所に…… <p>グループホーム見学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GHに限らず、幅広く障害のある方が自宅以外で生活する場を見学したい ・シェアハウス等、サービス以外のところも行ってみたい ・毎年同じようなことになりがちだけど、1年1年ステップアップしたい ・いろんなパターンの生活を知ること、播磨町で出来ることにつながる ・いつのまにか、こんなところにも出来ていたと言えるようになればいい

- ・去年あかりの家のGHが見れてよかった
- ・空き家の活用などができればいい
- ・自分の担当している方がグループホームを利用しているが播磨町にはグループホームがない。明石のグループホームを利用している。一方でGH実現に向けて何ができるか考えていきたい
- ・最初、GHを作れると思って頑張ったが、それは難しいと思うと、あまり勉強したくないという気持ちにもなったが、予算がつけられるなどの希望もある
- ・見学会自体は良かった。これをどうつなげていけばいいのか
- ・見学会はした方がいいが、種類が少ない
- ・精神のGHが少ない
- ・勉強になる。視野が広がる
- ・播磨町ならではのGH作りを考える
- ・いろんな情報が入るが、数が少ないので今後どうしていくか工夫が必要。たぶん、福祉グループが力を入れているので、いいものが出るでしょう。

宿泊体験

- ・目的を明確に、成果が見えにくい
- ・参加した人にとって、受け入れた人にとって、いい経験になった
- ・参加者がひろがりにくい
- ・工夫が必要。せめて年齢を下げる中1〜とか・・・
- ・参加者の広がりが必要。参加者の声。でも、どうして参加しないのか
- ・お友達が少ない？他の場所での宿泊も考える
- ・家族は希望してるのに子供（本人）がいやがる。どうして家が楽園なのか問題
- ・宿泊の人数、メンバーが同じ人になっているのでやり方など見直しも必要
- ・何人かの参加者がいる。その人たちを次にどこに結びついていくのかを考えてもいいのかな
- ・過渡期にきているので、見直しが必要
- ・次に参加する人が少ないかな

親子宿泊体験

- ・一方で見守りの人がいる（支援してくれる人）
- ・本当は災害があった時に動けるかどうか
- ・具体的には他市町でのチームを作って課題出し、集中して取り組みたい
だからこそ、いろいろな地域の方を巻き込んでできたらと思う
- ・今後継続するためには、対象の年齢や目的を決めていく必要がある
- ・実際の災害で成果があるかもしれないので、規模や頻度を考えて行う
- ・少なくとも今年はやって良かった。行政職員がご本人にふれて知ることは良かった
- ・もし、災害があった時のためには続ける方がよい。連泊もやれば課題がわかる
- ・つまり継続した方がよい
- ・何を目的でしているのか分かりやすい
- ・参加者・保護者が具体的にわかりやすい体験
- ・学校行事にもできるかも。PTAと協力
- ・自治会にも反映していきたい。裾野を広げたい
- ・この体験から初めてのことにも取り組みやすくなった
- ・親同士のつながりもできる

3、その他

○そだつ部会

- ・そだつマップの進捗状況

○くらす部会

- ・播磨小学校区避難所運営訓練 2月25日 自立支援参加者16名

○はたらく部会

- ・はたらくみんなのお茶会 2月5日 参加者16名

○推進会議

- ・第2回推進会議 2月24日 参加者24名

4、次回開催日の調整

平成29年4月17日(月)13:30～ 地域連携交流施設